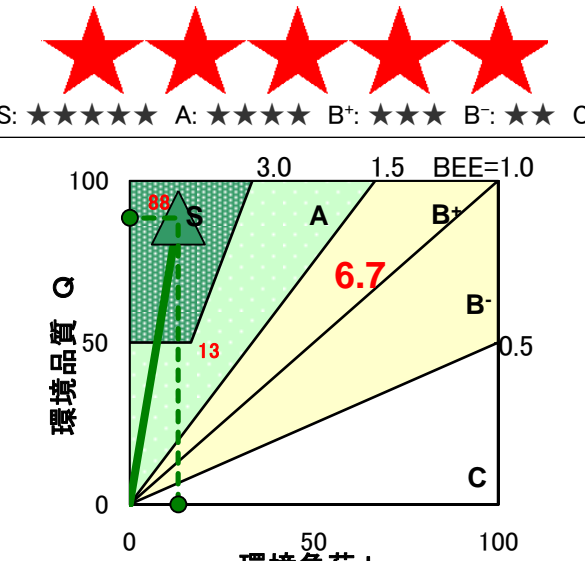


1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	稲城エコハウス	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2013年12月	竣工	持ち込み家電等	確定	
建設地	東京都稲城市百村509-2	確定	外構の仕様	確定	
用途地域	第1種低層住居専用地域、第1種住居地域	<備考>			
省エネルギー-地域区分	IV				
構造・構法	木造在来				
階数	2				
敷地面積	134 m ²	評価の実施日	2014年8月11日		
建築面積	61 m ²	作成者	藤平 和俊		
延床面積	123 m ²	確認日	2014年8月12日		
世帯人数	2	確認者	高橋 俊行		

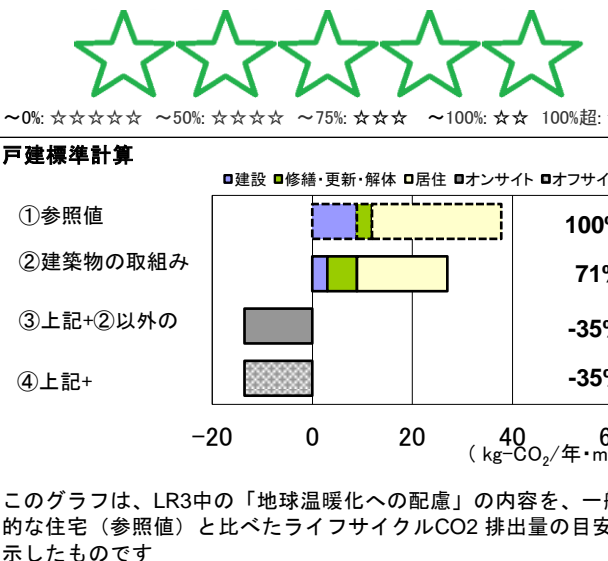
2-1 すまいの環境効率 (BEEランク&チャート)



S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

BEE=1.0

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

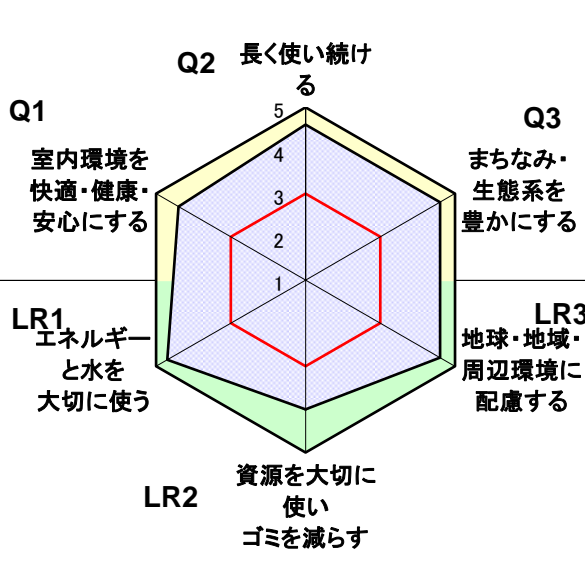


戸建標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 71%
③上記+②以外の -35%
④上記+ -35%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



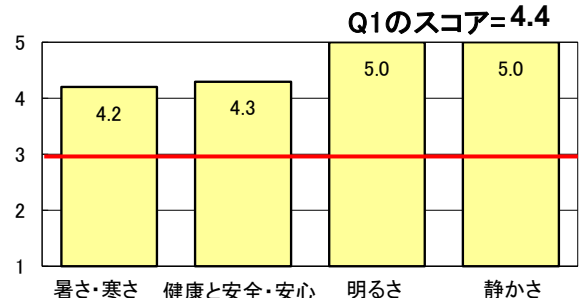
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする
Q2 長く使い続ける
Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う
LR2 資源を大切に使いゴミを減らす
LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

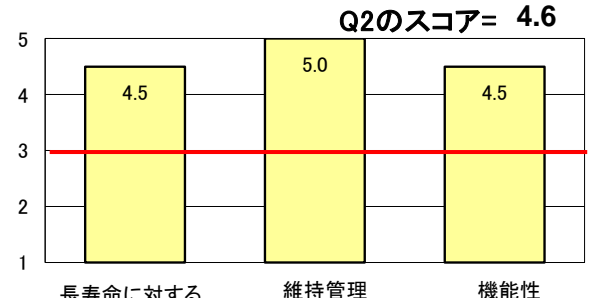
Q1のスコア= 4.4



暑さ・寒さ 4.2, 健康と安全・安心 4.3, 明るさ 5.0, 静かさ 5.0

Q2 長く使い続ける

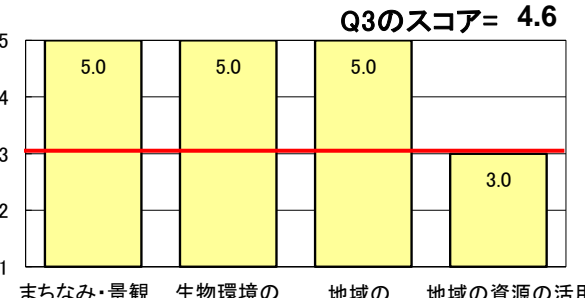
Q2のスコア= 4.6



長寿命に対する 4.5, 維持管理 5.0, 機能性 4.5

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア= 4.6

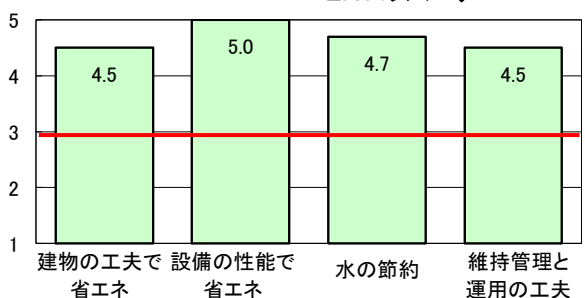


まちなみ・景観 5.0, 生物環境の 5.0, 地域の 5.0, 地域の資源の活用 3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギーと水を大切に使う

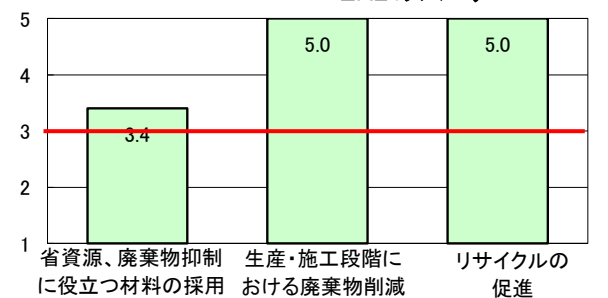
LR1のスコア= 4.7



建物の工夫で省エネ 4.5, 設備の性能で省エネ 5.0, 水の節約 4.7, 維持管理と運用の工夫 4.5

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

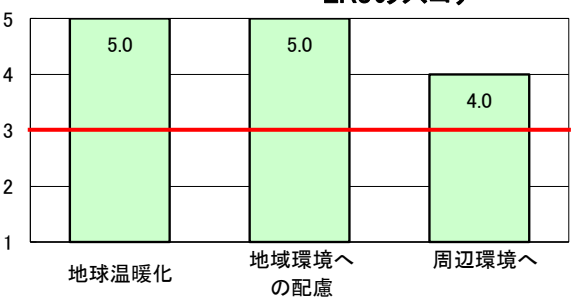
LR2のスコア= 4.0



省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用 3.4, 生産・施工段階における廃棄物削減 5.0, リサイクルの促進 5.0

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア= 4.6



地球温暖化 5.0, 地域環境への配慮 5.0, 周辺環境への 4.0

3 設計上の配慮事項

総合	その他
断熱性能、日射調整機能、通風・排熱性を高めて、居住性を向上させつつ冷暖房負荷を軽減。さらに、高効率設備機器の導入と大規模太陽光発電により、エネルギー自給率300%超を目指すとともに、ライフサイクルカーボンマイナス(LCCM)を実現した。高い耐震性能、長寿命化、節水・雨水利用、生態系や景観への配慮などとともに、総合的にサステイナブルな仕様とした。	バルコニーと軒の出、さらに落葉樹を利用した日射調整、ウィンドキャッチャー窓を用いた卓越風の活用も、快適な室内空間づくりと省エネに貢献する。アプローチをスロープにし、すべてのドアを引戸にしつつ段差をなくし、バリアフリーにも配慮した。
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 断熱性能、日射調整機能、通風・排熱機能を強化し、高性能エアコンを用いた暖房・冷房計画を行った。居室の南面に大きな開口をとり昼光を十分に活用するとともに、遮音性の高いサッシを用いた。	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 本体外装と外構材はライトページ系の同系色でまとめた。太陽光発電パネルも屋根と一体感の高い仕様とした。オープン外構とし、敷地内をできる限り緑化した。緑地の連続化に努め、多様な樹木・草本類を植栽した。
LR1 エネルギーと水を大切に使う 建物における工夫で冷暖房負荷を削減しつつ、高効率の給湯器やエアコンなどの機器を導入することで、徹底的に省エネルギーを図る。南向きの片流れ屋根に1.4kWの太陽光発電を設置し、再生可能エネルギーを最大限に活用。節水機器を導入するとともに、雨水タンクを設置して植栽の灌水に利用している。	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する 敷地内の降雨は地下浸透させるとともに、一部は雨水タンクに貯留して灌水に利用している。生ごみ処理設備を設置し、厨芥を堆肥に変えて利用している。地域生態系に適した多様な植物を選定し、環境保全と生物多様性に配慮した。
Q2 長く使い続ける 構造躯体については、耐震等級3および劣化対策等級3を満たす。外壁材・設備配管は更新性を高める仕様とした。長期の計画的維持管理体制と維持管理に必要な情報を整備している。	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす 構造材の過半に、持続可能性が証明された国産材を用いた。プレカット過程で発生した端材をチップなどに再生している。現場では、副産物の分別・回収を行っている。躯体・内外装材を特定できる情報を住まい手に提供して、将来の改修・解体時のリサイクルに配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (すまいの環境品質), L: Load (すまいの環境負荷), LR: Load Reduction (すまいの環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (すまいの環境効率)
 ■ CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE戸建-新築の場合、BEE_H、Q_H、LR_Hなどとするべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q_H2、LR_H1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)
 ■ ライフサイクルCO₂の算定条件等については、マニュアルおよび「CO₂計算」シートを参照されたい